

竹内和順議員



● 勝山市の個々の文化資源について ● 勝山市観光まちづくり株式会社について

一般質問

問 文化振興事業としての市民総合文化祭や各地区の文化祭等が行われているが、文化面に対する助成が弱いのではないかと感じている。

答 勝山には、県内でも類を見ないすばらしい勝山城博物館がある。年に何度本物の芸術作品が展示されたり、音楽会が開催されたりしている。まちづくりは人づくり、人づくりの根幹は、豊かな心の育成と考えるが、市の見解を伺う。

答 豊かな心を育むためには優れた芸術に触れることも重要であり、「勝山市芸術劇場」や市民総合文化祭等を通じて、そうした機会の提供に努めている。例えば、芸術劇場では年1回、プロの音楽家によるコンサートや落語会等を開催している。平成26年度には「オーケストラアンサンブル金沢」と子どもたちが輝く演奏会」と題して、市内の小中学生や高校生が、オーケストラの演奏をバックにそれぞれの曲目を披露するといったコンサートを開催した。また、昨年「かつやま寄席」を開催し落語と曲芸の文化を楽しんでいただいた。芸身近な場所で文化・芸術に親しむ機会を提供し、子どもの頃から豊かな文化経験ができる土壌を作っていきたい。また、自ら文化芸術活動を行うことも心の豊かさに繋がると考える。市民総合文化祭や各地区の文化祭の充実にも努めていきたい。

問 勝山市観光まちづくり株式会社は、第三セクター方式の株式会社で、株主構成は、勝山商工会議所が51%、勝山市が24%、金融機関が15%、その他が10%となっている。そこで、市長の会社に対する思いについて伺う。

答 勝山市観光まちづくり株式会社に対して出資することで、観光の産業化を推進し勝山市内の事業者全体の稼ぐ力を高め、市民全体が潤っていく仕組みを共に考え支援していきたい。いかにして会社の収益を上げるのか、そのために会社としてどのような努力が必要か、会社として利益が上がりそれが積み増しされること、勝山市全体の観光資産を生かした勝山市の収益となる。行政としてはできない、利益を生み出すことができるのが、勝山市観光まちづくり株式会社であり、観光の産業化の主体である。

北川晶子議員



● 熊本地震からの教訓について ● 食品ロス削減対策について

一般質問

そのほかの質問
・ロタウィルスワクチンの予防接種について

問 他の地域よりも発生率が低いとされていた熊本を襲った震度7の地震は、どこの地域でも起こるといふ現実を改めて突きつけた。そこで本市において「今、すべき備え」に取り組むことが大事である。①今回の地震では、犠牲者の原因の一つに家具の転倒が挙げられる。そこで、被害を最小限に抑えるため、他市でも取り組んでいる「家具転倒防止器具取付事業」の導入の考えはないか。

答 罹災証明書の発行が遅れ、義援金が被災者になかなか届かないことが大きな問題になった。そこで、円滑に罹災証明書を発行するため、「被災者支援システム」の導入の考えはないか伺う。

答 ①勝山市耐震化促進計画にも家具の転倒防止策を推進するよう定めている。他の自治体では高齢者や障害者世帯を対象とした補助制度や、施工業者の登録制度などがあるので、今後、勝山市でどのような取り組みができるか前向きに検討する。②県内でも導入済みの自治体があり、その内容を確認して、導入に向けて前向きに検討する。

問 多くの食料を輸入に頼っている日本。年間632万トンが食品ロスと推定され、その削減が喫緊の課題となっている。そこで、市民・事業者が一体となった食品ロス削減に向けた取り組みが大切と思うが、本市の考えを伺う。

答 福井県では、平成18年度から他県に先駆けて「おいしいふくい食べきり運動」を展開している。平成23年度からは、食べきり運動協力店・食べきり家庭応援店の募集、食材使い切り料理講習会の実施、賞味期限と消費期限の周知、各種の普及啓発活動により、消費者へのさらなる運動拡大や地域展開、子どもや若い世代への普及啓発に力を入れている。勝山市では、第2次勝山市食育推進計画の、基本目標「ありがとう」の食に感謝する心を育むの中の具体的な取り組みとして、食べ残しの抑制を掲げており、生ゴミの減量化の観点からも啓発を進め、県の「おいしいふくい食べきり運動」と関連づけて様々な活動を推進している。